

# 有識者ヒアリング調査 結果ポイント(最終報告)

## 1. 調査概要・調査対象

本市が目指すヘルスケアの振興にむけた可能性や課題、推進方策等についてご助言を頂くことを目的に、本協議会委員やオブザーバ等にヒアリングや書面による調査を行った。

今回は、第3回協議会終了後に実施したもので、計画案のとりまとめ及び次年度以降の計画の推進について重点的にご意見を伺ったものである。

## 2. 調査結果 (ポイント)

### 重点施策について

#### 【1】健康づくり・予防について

- ・誰のための健康づくりであるのか明確にするべきである。国保加入者のみでは行政サービスとして偏りがあり、企業健保などと連携して事業所の従業員の健康づくりにも取り組むべきである。
- ・退職して国保に移行する時に健康でいられるように、働く人の健康づくりに取組んでおくこと、またリタイア後も地域に居場所や役割を作っていくことが大事である。それが、社会保障費の抑制にもつながる。
- ・事業所の経営課題として従業員の健康づくりを位置付けて、啓蒙のためのセミナーやウォーキングのプログラムなどを行う必要がある。中小企業は自社単独では難しいので、連携して取り組んでもらったらいい。
- ・病気を早期発見するための健診から、健康になるための健診にすることが大事である。そのために、ロコモ健診などソリューションをセットで提供するようなやり方が望まれ、そこに企業の新たなビジネスチャンスも有り得る。
- ・高齢期をむかえた高齢者を寝たきりにしないために、今後、疾病・介護予防に力を入れるべきであり、ビジネスになりうる分野である。
- ・医療クラスターの形成のためには、住民のための地域密着型の医療をクラスタリングして提供することが第一である。じっくり時間をかけた結果として全国や世界中から患者や医師が集まるような規模に拡張していくものである。
- ・病気を療養するためだけでなく、市民を元気にする市民病院を目指してほしい。海外では、ショッピングモールと一緒にあった基幹病院もある。楽しくて日常の暮らしが持ち込めるような、病院らしくない病院が望まれる。
- ・大学の医学部と市民病院等の地域の病院の連携が重要である。
- ・再生医療以外の地域資源をもっと積極的に活用していくべき。再生医療は先端医療の象徴的な事業となるが、企業にとって参入は容易ではなく、みかん、アサリ等を活かした予防の製品、サービス等なら取り組み易い。再生医療関連だけに拘るよりも、色々な企業のアイデアを受け入れる事で蒲郡での新規事業を考えやすくなる。

## 【2】産業クラスターの形成

- ・ クラスター形成に向けた全体のシナリオが必要。“リペア”がキーワードになる。
- ・ 全国でヘルスケアに取り組んでおり、再生医療だけや総花的なものでは失敗する。全国の事例を参考に、蒲郡の強みを生かした特色あるテーマで推進していくべきだ。
- ・ 蒲郡に研究所や企業を立地することで、そこで働く研究者や従業員に楽しみや豊かさ、利便性の高い暮らしなどの価値を提供したい。
- ・ 研究施設の誘致はゴールではなくてあくまで手段にすぎない。20年後、30年後にどんな方向や将来像を目指すのか行政ばかりでなく関係者が検討し共有することが大切である。
- ・ 愛知県は12月に、国家戦略特区の指定を目指し、「あいち医療イノベーション推進特区」の提案を追加で行なった。蒲郡でも再生医療関係や眼科、予防関連の医療機器開発、医療ツーリズムの関係で何か特区のコンテンツとなるテーマ、取組を持てるとよい。
- ・ これまで市と縁の薄かった遠方の企業誘致のためにも、蒲郡にどんな地域資源やポテンシャルがあるのか、これまでどんなヘルスケアに関する取組の実績があるのか等を市内外へ情報として発信すべき。

## 【3】多様な連携による観光推進

- ・ 非日常のなかで健康づくりを体験して日常の健康づくりに生かしてもらえたらいい。
- ・ 貴重な観光資源としてのラグーナを、東三河広域における観光拠点として位置づけないと、マーケットが広がらない。
- ・ 広域連携におけるリーダーシップの役割を蒲郡が果たしていけるように推進するべき。
- ・ 市民ボランティアなどにより、観光や健康づくりを推進する健康マイスターを育成して、地域ぐるみで進めることが大事である。
- ・ 医師会や市民病院と連携して、しっかりと科学的なエビデンスもとるとともに、1次産業や観光宿泊業者などと連携しながら「楽しい健康ブランドのまち」の蒲郡モデルを構築したい。

## 基本施策について

### 【1】ICT

- ・ 市民の健康データやニーズ、健康課題などのデータを見える化して開示し、企業に提供することで新たな民間サービスの創出のきっかけになる。
- ・ 今後、大学病院や公立病院、診療所が、それぞれの役割を明確にしてゆるやかに統合を図っていくことが、地域医療を守るためにも必要ではないか。
- ・ 新たなシステムの導入は現場にとっても魅力的だが、その維持は非常にコストがかかり、国の補助金が無くなるとそれ以上維持できなくなるケースも多々ある。そのような事が無いように市もしっかり継続的に維持管理に取り組んでほしい。

### 【2】人材育成

- ・ 地域ぐるみで、ヘルスケア分野をけん引する将来有望な若い人材を育てるための場づくりが必要だ。
- ・ 学校と連携して子どもへの健康教育の場を作っていくことで、健康は自分でつくるものというヘルスリテラシーを高めることが大事である。

## 計画の推進にむけて

### 【1】リーディングプロジェクトの実践

- ・個別のプロジェクトを具体的に組成していくことが、大きな動きを作る呼び水にもなるので大事である。
- ・周辺市町と連携して、観光とヘルスケアを結び付けた多様なプログラムが体験できるモニターツアーを実施したい。
- ・市民病院等での実証等のプロジェクトは、積極的に企業等へ働き掛けていくと良い。
- ・ヘルスケアという概念が広すぎて、企業は返って参入がしづらいかもかもしれない。本市のクラスターの目指す姿について、ある程度将来像やキーワードとなるテーマを考え、それを見える化して誘致していくべき。

### 【2】研究会の立ち上げ・誘致

- ・次年度以降、大学や企業、行政が参画して、様々な人脈やノウハウを持ち寄って具体的なプロジェクトについて検討する研究会の立ち上げが求められる。
- ・国立再生医療センター、国立眼研究所（ナショナルアイセンター）等の誘致や、国家戦略特区への認定についての可能性についても、民間企業も交え、調査・研究していくべきである。
- ・国や県が行う再生医療に関する研究会なども、ぜひ蒲郡を会場にして行ってもらうべきである。
- ・プロジェクト立ち上げは企業がやる気になる事が必須条件。企業の経営者同士が気軽に情報交換できる場所があると、プロジェクトは生まれやすい。

### 【3】コーディネータ機能の確保

- ・医工連携を的確にコーディネートできる専門人材の確保が必要ではないか。特に再生医療分野などで地域のリーダーシップを取っていけると良い。

### 【4】数値目標の設定

- ・ただやみくもに頑張るのではなく、いつまでにどんなことに取り組むのかという目標となるキャッチフレーズや数値を設けて、進捗状況を管理する必要がある。
- ・健康づくりを進めるための基盤づくりに向けたプロセス指標などが重要になる。
- ・具体的な目標指標などは、健康がまごおり 21 第2次計画で盛り込んでいけばよい。ヘルスケア計画等では、インフラ整備等について年限などを区切っていけると良い。